

(23) 授業科目の内容を示す資料

初級Ⅰ：総合日本語【話す（やり取り）】

【目標】

紹介や挨拶などの日常的な表現を使うことができる。相手がゆっくり話してくれる、こちらが理解できないときに言い換えてくれる、こちらが表現できないときに助け舟を出してくれるなどのサポートがあれば、身近なニーズを満たすための基礎的なやり取りができる。

【学習内容】

紹介や挨拶などの日常的な表現を使ってやり取りを行う。また、相手にゆっくり話してもらったり、助け舟を出してもらったりしながら、身近なニーズを満たすための基礎的なやり取りを行う。

【学習方法・形式】

「言ってみよう」を用い、学習者が実際に遭遇するであろう場面・状況での会話を練習する。最初は教師に助け舟を出してもらいながら、その後、学習者同士で場面に沿ったやり取りを行う。

【使用教材】

できる日本語【初級】本冊

初中級：総合日本語【話す（発表）】

【目標】

人物や生活、自身が置かれている環境、日課、好き嫌いなどについて、語句や文を並べながら単純なプレゼンテーションができる。簡単な課題であれば、教師から手助けをもらいながら、意見、計画、行動などについて述べるができる。

【学習内容】

自身や身近な人の生活や日課、好きなものなどについて、理由を挙げながら簡単なプレゼンテーションを行う。それに対する質問があれば答える。

【学習方法・形式】

本冊の「話してみよう」を用い、日常的で身近な場面に関するイラストを見て、自分の知っている言葉で描写してみる。また、「話読聞書」を用いて、一文のやり取りだけでなく、いくつかの文を連ねて「固まり」で自分のこと、自分の考えを話す。

【使用教材】

できる日本語【初中級】本冊

中級Ⅰ：総合日本語【理解する（読む）】

【目標】

日常生活で頻繁に用いられる表現や用語、アルバイト関連の言葉で書かれたテキストを理解することができる。個人の手紙を読んで、出来事、感情、希望の表現を理解することができる。また、身近な話題についてのまとまった簡単な文章から、要点を見つけ出すことができる。

【学習内容】

日常生活で用いられる表現や用語、アルバイト関連の言葉が使われるテキストを読んで理解する。手

紙を読んで、内容や筆者の感情の表現を理解する。また、身近な話題をテーマとして取り上げられた文章から、要点を見つけ出す。

【学習方法・形式】

本冊の「知って楽しむ」を用いて、教師との問答により、長めのテキストの内容が理解できているかどうかを大意取り→詳細確認→要約の手順で確認する。また、本冊とワークブックの「見つけた!」を用いて、情報を読み取り、内容を理解する。

【使用教材】

できる日本語【中級】本冊

中上級：作文・記述【書く】

【目標】

さまざまなソースを持つ情報や議論を集め、それらをもとに自身が関心を持つ分野の話題に関してエッセイやレポートを書く際、補足や強調を加えながら、論拠、論点を整然と展開することができる。また、ある視点に対する賛成や反対の根拠を挙げながら、選択肢の利点と問題点を明瞭に説明することができる。

【学習内容】

学習者が自分を取りまく環境・状況で遭遇する可能性がある話題など、教材で扱われるテーマに沿って、作文を行う。

【学習方法・形式】

教材のトピックをもとに設定されたテーマに沿ってエッセイを書くが、その前に、クラス全体、あるいはグループで意見交換を行う。意見交換で得たアイデアを参考にしてもよいし、自身独自のアイデアだけに基づいて書いてもよい。

【使用教材】

学ぼう！にほんご「中上級」本冊

中上級：総合日本語【理解する（読む）】

【目標】

幅広い分野、特に生活や文化関わる情報や記事、レポートなどにざっと目を通すことにより、長く複雑なテキストの重要事項を時間をかけずに見つけることができる。自身が強い関心を持つ分野であれば、資料から情報や著者の考え、意見を読み取ることができ、専門外の記事であっても、辞書を使えば理解することができる。

【学習内容】

主に生活や文化に関わる幅広い分野の情報や記事、レポートなどの長く複雑なテキストの重要事項を、時間をかけずに見つける。資料から、情報や著者の考え、意見を読み取る。専門外の記事を辞書の手助けを借りて理解する。

【学習方法・形式】

教材の主に会ベースの「本文1」と論述ベースの「本文2」を用い、教師との問答により内容が理解

できているかどうかを大意取り→詳細確認→本文設問の手順で確認する。また、テーマに関連のある新聞記事があれば用いる。

【使用教材】

日本文化を通して学ぶ日本語（学院オリジナルテキスト）
生教材（新聞記事、ジャーナル）